

複数の方策を同時に

森 均

今回エッセイを書く機会を与えられ、心から感謝いたします。折角の機会ですので今まで雑誌や著作等で書いてきました内容と重複しないようにしながら教員生活を振り返りたいと思います。少しでも皆さまの参考になれば幸いです。

さて、私が大阪府公立学校教員に採用されましたのは 30 歳の時でしてその後 30 年間勤めて定年退職を迎えたわけですが教員に採用される前にメーカーで働いていましたので、そのあたりところから書き始めたいと思います。

私が工業高等専門学校電気工学科を卒業して就職したのは家電メーカーでした。配属された工場では従業員約 400 名でアメリカやヨーロッパ向けのカセットテープレコーダーを組み立てていました。6 本あるコンベアで毎日 500 台を組み立てて出庫するのですが、その内の 1 本の工程管理に従事することになりました。

そのコンベアには約 40 名の社員がいて次々に部品を取り付け、コンベアの最後にいる 2 名の検査係が様々な項目について検査していました。

その検査係から、例えば「わずかな振動があり不良品が続出している」と連絡がありますと、現象を確認し関係するいくつかの部品に想定できるすべての防止策を施しコンベアにのせるわけです。55 秒に 1 台がコンベアにのって流れていますので対策を施した部品で組み立てられている間も不良品は増え続けます。ぼーとしていて対応が遅れますと不良品が山のようにたまるわけです。

講じた対策の 5 つの内たいがい一つは当たります。有効な対策を見極めてその対策をその日使用する対象部品にすべて施しなんとかしのいで、その部品と良品と徹底して比較し正確な原因を突き止めます。そして部品の仕入先に改善を連絡し在庫の全部品に対策を施すわけです。

この時期には、とにかく現象からいくつかの対策を試験的に素早く講じ有効な対策を見つけて直ちにその方法をすべてに施すというやり方を身につけたわけですが、人を育てる教育の世界ではそんな方法だけではうまくいかないことを後々知ることになります。しかし、学校で何らかの問題が発生した場合に複数の対応策を同時に行うこと、特に経験のない事象に遭遇した場合は時間をおかずあらゆる方策を同時に実施する、そんな習慣がこのメーカーでの経験によって培われたと思います。

当時はまだ 20 歳すぎ。10 年後には教員に採用され、指導主事、教頭、首席指導主事を

経て、10 年間にわたり聴覚障がい、工業、知的障がい、普通科高校の校長を勤めるようになるなんて全く思いもありませんでした。(次回 12 月に続く)

(森 均 特任教授／教員養成センター)
